

自己評価報告書

平成30年度 日本橋中学校		自己評価報告書	
学校(園)名:	日本橋中学校	所在地:	中央区東日本橋1-10-1
校(園)長名:	平松 功治		
児童(生徒)数	334	学級数	10
		教員数	17
		職員数	25
1 重点目標の達成状況及び取組状況			
重点目標1			
「生徒一人一人を大切にしたい学習指導で学びの質を保障し、確かな学力の向上を図る。」			
学力向上に関しての取組の評価として、			
・授業時数の確保は、三者(教員、保護者、生徒)とも80%以上、授業規律の徹底については約85%と高い肯定的評価を得られた。			
・授業内容等の質に関する部分では、教員、生徒は、75%を超える肯定的評価だったが、保護者は約60%と低い数値となった。これは、「分からない」と回答する保護者が10%を超えたのが、理由として考えられる。			
・サブリノートの取組や家庭学習に関しては、三者とも肯定的評価の割合が他に比べ低く、課題と捉えていることが分かる。家庭との連携を密にした自学自習の取組を進めたい。			
重点目標2			
「暴力やいじめがなく、生徒同士、生徒と教師が、規律をもって豊かに関わり合う。」			
・いじめ、不登校等問題行動の早期発見についての評価は、保護者、生徒共に20%弱が課題とする回答があった。生徒一人一人を大切にしたい対応をさらに進め、肯定的評価をさらに高めていきたい。			
・道徳については教科化を見据え、話し合い活動の充実を目指した結果が、三者の肯定的評価の割合に現れた。			
・運動会等の行事に関しての肯定的評価が三者とも90%を超え、充実した活動を通して多くの生徒が達成感を味わうことができている。委員会活動への取組方で、昨年度の生徒の数値が大幅に改善した。生徒会主催の清掃ボランティアや募金活動が定着した結果であろう。			
重点目標3			
「日々の学校生活を健康・安全に過ごすとともに、			
将来展望性をもたせる活動を充実させる。」			
・オリパラ教育に関しての評価指標を今年度初めて取り入れた。保護者の「わからない」と回答した割合が他に比べ高かったため、2020年に向けて取組内容を充実させ周知したい。			
・キャリア教育に関する設問は、三者とも約90%が肯定的な回答で、充実した取組になっていたと言える。			
・体を動かす機会の充実は、課題意識のある生徒が多く、昼休みの体育館開放など運動機会の少ない生徒の意識や体力向上を目指したい。			
・外部講師による将来展望性に関しては三者とも80%以上の肯定的評価で充実した取組になっていたと言える。			

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者の評価で肯定的評価の割合が80%を超えたのが、

- ①教員の対応や言葉遣い(95.0%)
- ②学校公開等の情報公開(94.3%)
- ③生徒の学校生活の様子(90.4%)
- ④保護者の学校行事への参加のしやすさ(89.4%)
- ⑤学校の通知文(89.0%)
- ⑥規範意識や思いやりの心の育成(85.5%)
- ⑦学校への相談のしやすさ(85.5%)
- ⑧教員の生徒への接し方(85.1%)
- ⑨安全対策(83.6%)
- ⑩学校・家庭・地域の連携(83.3%)

と20項目中10項目あった。

また否定的評価の割合が20%を超えたのが、

- ①基礎学力の定着への取組(26.3%)
- ②コンピュータの活用(22.8%)
- ③生徒の地域行事への参加(22.0%)
- ④評価の在り方(20.6%)
- ⑤保護者の教育活動への関わり(20.5%)

と5項目あり、引き続き教育活動を充実させていきたい。

3 今後の改善方策

- (1) **少人数指導・個に応じた指導の充実**…学力向上に関しては、保護者の関心が高く課題意識が他の項目に比べて高い数値である。区講師を活用した少人数による授業を充実させるとともに、一斉指導における個に応じた指導を丁寧に行うことを各教科で徹底し、更なる学力向上に努める。
- (2) **学校評価の在り方の改善**…今年度学校評価の在り方を検討し、生徒の学校評価を終え、その結果を保護者に伝えた後に保護者アンケートを実施した。その結果、保護者アンケートの回収率が85%以上になり、前年に比べ、15ポイント上昇した。また「分からない」と回答した割合が、14%から11%に減少させることができた。
- (3) **新しい教育課題への対応**…ICT教育、道徳の教科化、特別支援教育等の本校の解決すべき教育課題を明確にし、その解決に努めるカリキュラムマネジメントを充実させる。